

(部：会議後の修正箇所)

第 2 回審査会における要確認事項について

<騒音>

①土地利用計画図のような大きな地図の中に、騒音の調査・予測地点を示してほしい。

調査・予測地点は別紙 1 のとおりです。

予測地域の考え方は以下のとおりです。

- ・建設機械の稼働・施設の稼働：対象事業実施区域周辺約 200m の範囲について 10m メッシュで面的な予測を行います。敷地境界の最大値、現地調査地点及び直近住居（除外地内の最大地点含む）の値を示します。
- ・工事用車両・関連車両の走行：予測地点（保全対象）のある断面について、道路端から 100m の範囲について高さ方向（1 階、2 階高さ相当を基本として、沿道状況を踏まえて設定）も含めて断面予測を行います。新設進入路入口付近に 2 断面設けていますが、土地の取得状況により北側の断面は保全対象が移転して無くなる可能性があります。南側断面は県道 131 号線と新設進入路に挟まれる場所に位置しているため、両方からの影響を加味します。

②どの騒音源を対象に予測しようとしているのか。

建設機械の稼働：建設機械

工事用車両の走行：工事関係車両

施設の稼働：既存資料、類似事例をもとに施設の原単位を設定

構内走行車両は台数、走行経路から音源を設定

関連車両の走行：通勤車両を含む関連車両

★影響要因の通りです。

③建設工事に伴う騒音の予測は、建設工事騒音の予測式を使って工事自体からの騒音を予測する必要がある。

「ASJ CN-Model 2007」とします。審査会における委員のご指摘は、工種（ユニット）別をイメージされていたと思いますが、より具体的な工事計画をもとに機械（騒音源）別予測を行うことを考えています。

「ASJ CN-Model 2007」における伝搬計算自体は半自由空間における点音源の距離減衰式です。回折減衰に関する補正量については、仮囲い等を設置する場合は、「ASJ CN-Model 2007」に示されている式を利用します。

★工種（ユニット）別でやるべき、というご指摘であれば、そのように対応します。なお、「千葉市北谷津新清掃工場建設に係る環境影響評価書」（R2.6）では、単純に建設機械を配置して、点音源の伝搬理論式（回折減衰は前川チャート）を用いています。

<大気>

④工事の最盛期とは何を指すか。どのようにして最盛期の状態を把握するのか。

建設機械の月別の山積み表を作成して、大気汚染物質の排出量がピークとなる期間を設定します。参考事例を別紙 2 に示します（騒音、振動も同様）。

現時点では、詳細な工事計画が未定のため、いつになるとは記載できません。

⑤バックグラウンド濃度の設定と気象観測データの利用方法は。

- ・バックグラウンド濃度

一般環境大気調査地点（地点①）の現地調査結果の４季分の期間平均値を用います。

- ・気象観測データの利用方法

予測のための気象条件は、既存資料のデータ（風向・風速：土気測定局、日射量・雲量：東京管区气象台）を用いますが、現地調査結果との相関性を確認し、必要に応じて補正します。最新年のデータが異常年でないか過去 10 年のデータを用いて異常年検定で確認し、異常年であった場合は、他の年のデータを使用します。

<悪臭>

⑥悪臭に関する評価で、臭気指数 15 と比較するとあるが、この根拠は何か。

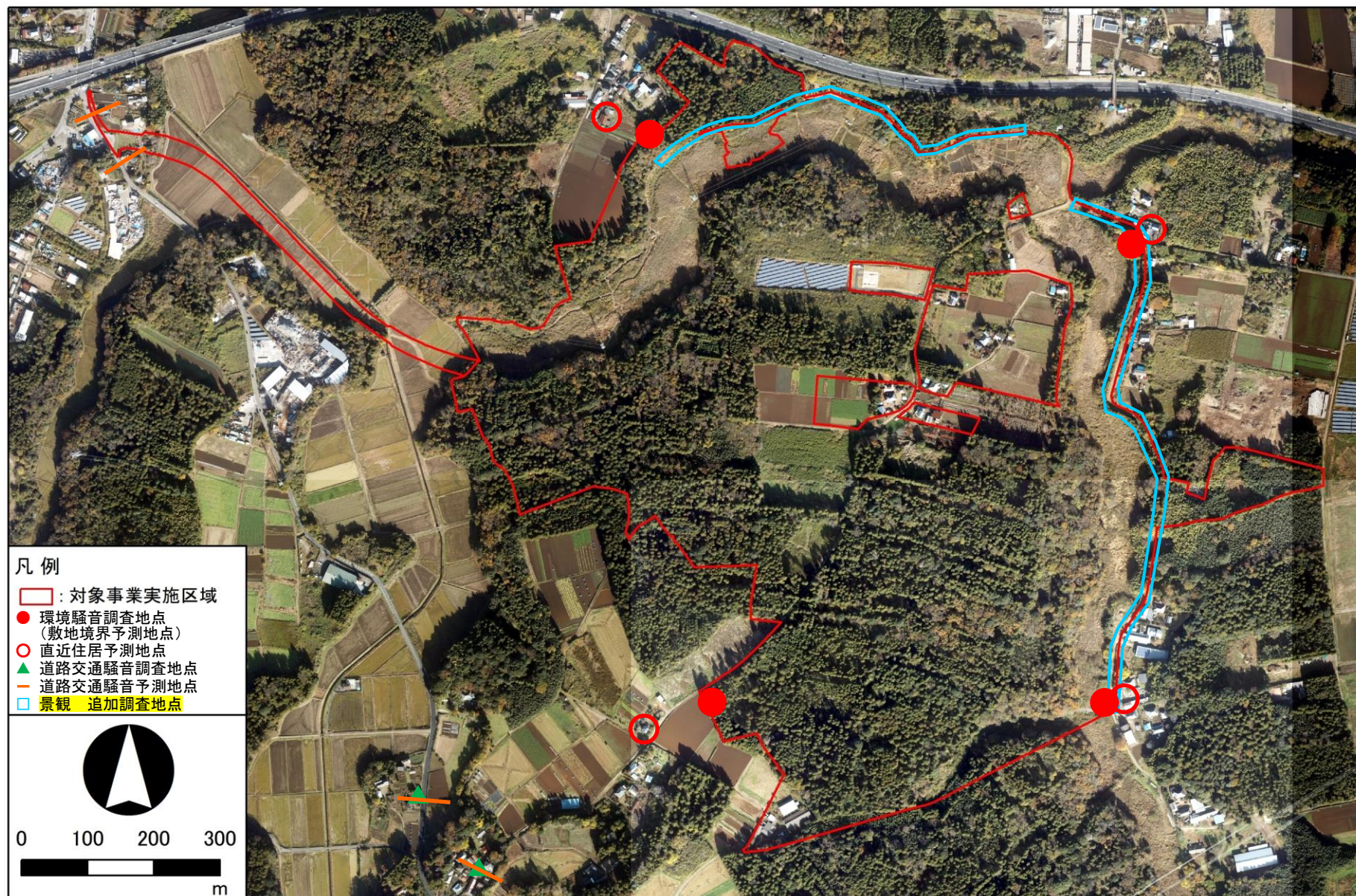
申し訳ございません。記載ミスです。

現状は市街化調整区域となり、敷地境界線の規制基準は 16 となりますが、将来の土地利用を勘案して、B 地域（近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域、工業専用地域）の基準 14 を評価の指標値とします。

<景観>

⑦対象事業実施区域外の景観調査地点だけではなく、区域内で谷津田の景観の調査も実施する必要があるのではないか。

現況の谷津田や谷津の景観を対象とした調査地点を追加します。具体的には、別紙 1 に示した谷津田や谷津付近の道路の範囲から適切な地点を選定して調査、予測及び評価を行います。また、今後事業計画の詳細を検討する中で、ご指摘のような景観に対する環境保全措置を講じることとした場合は、その対象箇所も含めて調査、予測及び評価を行い、その効果を適切に把握できるよう対応します。



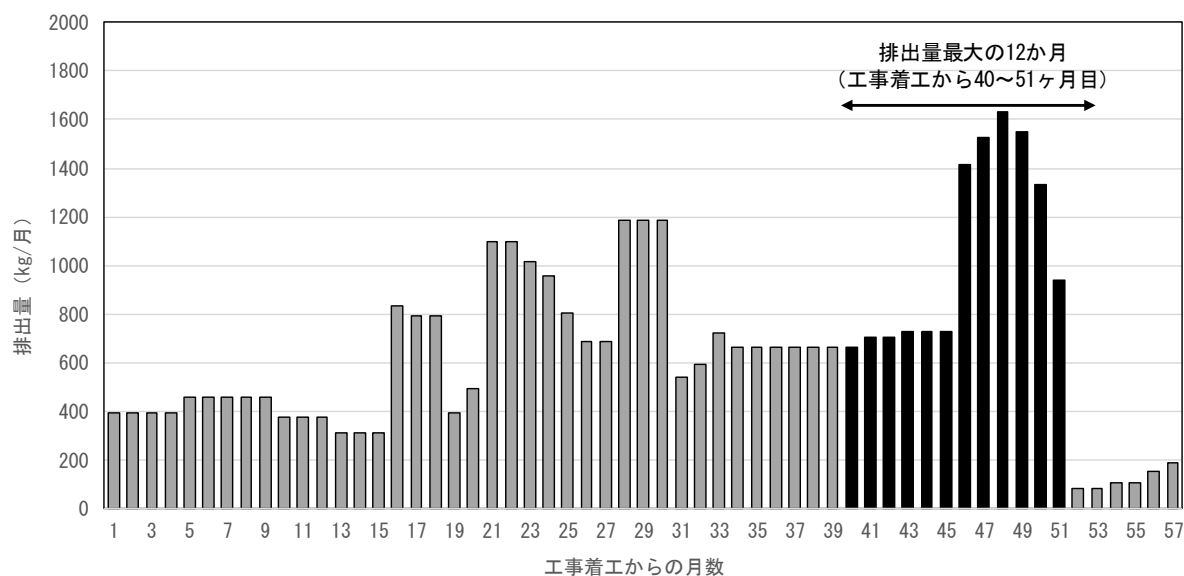
騒音・景観の調査・予測地

【建設機械の山積み表の例】

[illegible]

【建設機械の稼働による窒素酸化物排出量：工事中の大気質予測時期の設定例】

工事計画における建設機械の日台数から月間台数(1 月あたりの稼働日数を 20 日と設定)を求め、建設機械の稼働に伴い発生する窒素酸化物及び粒子状物質の排出量が最大となる 1 年間を予測対象時期とする。



【建設機械の稼働による騒音レベル（建設機械の合計）：工事中の騒音予測時期の設定例】

工事計画における建設機械の台数から、建設機械の稼働に伴い発生する騒音レベル（原単位）の合計が最大となる月を予測対象時期とします（振動も同様）。

